

氏名(本籍) 上 佳弘(埼玉県)  
学位の種類 博士(歯学)  
学位記番号 乙 第602号  
学位授与日 2014年12月24日  
学位授与の要件 博士の学位論文提出者(学位規程第11条第3項該当者)  
学位論文題目 歯周炎患者に対するインプラント治療の治療成績に関する後ろ向き研究  
—インプラント周囲軟組織の状態が予後に及ぼす影響について—  
論文審査委員 (主査)教授 申 基喆  
(副査)教授 藤澤 政紀  
(副査)教授 中 嶋 裕  
(副査)教授 天野 修

### 論文内容の要旨

本研究の目的は、歯周炎患者に対するインプラント治療において、インプラント周囲軟組織の状態が予後に及ぼす影響について分析することにある。被験者は、歯周治療後にインプラントによる機能回復が終了し、3年以上メンテナンスを継続している患者109名を連続抽出した。抽出条件として、①埋入部位：上下顎臼歯部、②インプラントの種類：Screw-Vent® Implant、③上部構造の種類：固定性ブリッジおよび連結冠、とした。

臨床的パラメータの比較から、上顎は下顎と比較して平均PPD ( $p < 0.0001$ )、mBI ( $p = 0.003$ )、KTW ( $p < 0.0001$ )にそれぞれ有意に高い値を示した。また、インプラント周囲骨吸収に関する因子の抽出にロジスティック回帰分析を行った結果、インプラント周囲骨吸収量(MBL)が1.5mm以上となる因子として性別 ( $p = 0.002$ )、および角化組織幅(KTW) ( $p = 0.0001$ )が抽出された。またMBLが3.0mm以上の場合では性別 ( $p = 0.013$ )、mBI ( $p = 0.014$ )および粘膜可動性 ( $p = 0.044$ )が抽出された。KTWについて分析した結果、KTWが0mmの場合および3mm以上の場合に平均PPDおよび平均MBLが高値となる傾向が示された(ANOVA;  $p = 0.026$ ,  $p = 0.003$ )。さらにKTWが1~2mmのグループと比較して、3mm以上のグループでは平均MBLが有意に高かった。

以上より、上顎の臼歯部では粘膜が厚いため、インプラント周囲ポケットが形成されやすく、他部位よりもプラークコントロールの維持が重要となることが示された。また、インプラント周囲組織における角化粘膜は1mm以上で3mm未満の幅が適正である可能性が示された。

### 論文審査および試験結果の要旨

本論文は、歯周炎患者に対するインプラント治療において、インプラント周囲軟組織の状態が予後に及ぼす影響について、疫学的に後ろ向き調査を行い、統計学的に分析したものである。その結果、上顎の臼歯部では粘膜が厚いため、インプラント周囲ポケットが形成されやすく、また、インプラント周囲組織における角化粘膜は、1mm以上で3mm未満の幅が適正である可能性が示された。本論文の結果は、歯周炎患者に対するインプラント治療において、エビデンスとして貢献できる有意義な知見と考えられた。

申請者 上 佳弘の本論文は、博士(歯学)の学位論文に値するものと判定した。明海大学歯学部研究生上 佳弘に対する1次審査は、2014年3月7日、主査 申 基喆教授、副査 藤澤政紀教授、中 嶋 裕教授、天野 修教授の4名により実施した。論文審査と専攻学術の試験は口述試問により実施し、語学試験は英語の関連文献の読解力を筆記試験で行った。その結果いずれも合格と判定した。